



11月末の全日本トランポリン選手権から3週間、川崎市市長杯争奪2014国際ジャパンオープンが行われる川崎市とどろきアリーナは外の冬の雨とは対照的に熱気に溢れていた。全日本では決勝に進めなかった佐藤優菜さんが予選前の15分練習を終えて、一旦待機しようとしている。(写真下)

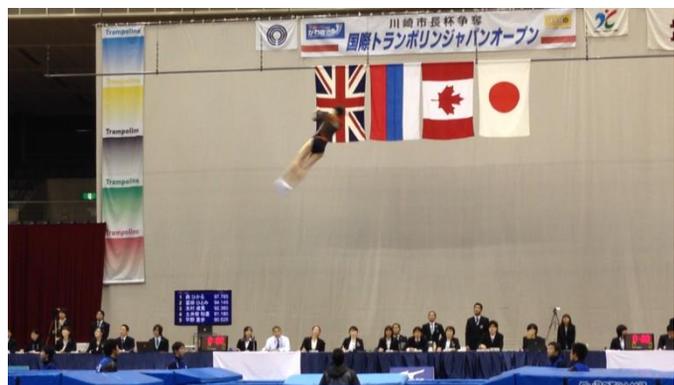
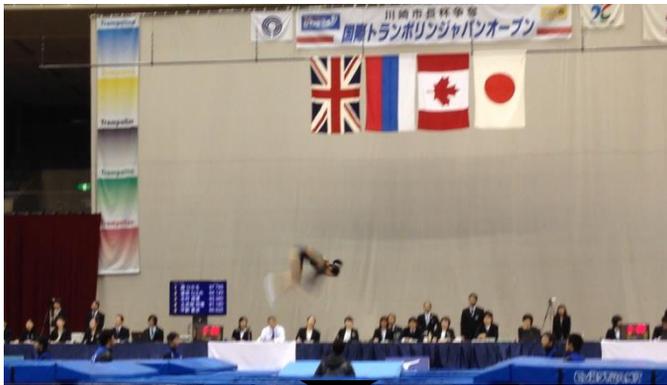
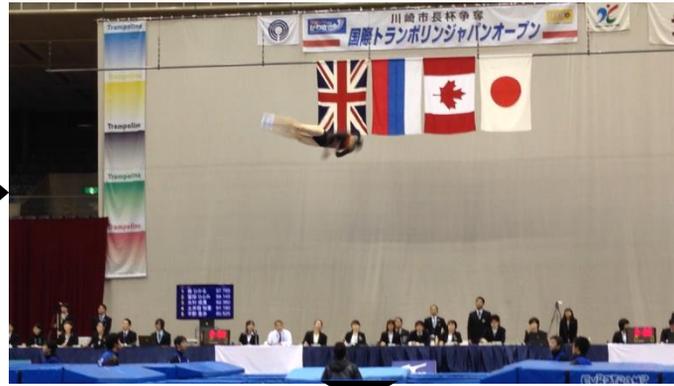
体操協会の方から「佐藤さんは体調は万全ではないが、出場することに決めた」と伺っていたので、とても心配ではあるが、2014年最後の大会で、彼女なら結果を残してくれると信じ、予選スタートを待つ。



いよいよ第1自由演技がスタート。  
静止画にすると伝わりにくいが、高く大きな跳躍でぶれも少なく、キレよく回転しているように感じた。

上下の回転、屈伸しながらの回転、横のひねり、それらを重力に逆らいながら、コントロールしにくいスプリングを利用しつつ、美しい動きに変貌させている。

素人ながら少しだけいろいろな選手の動きをみた視点で言わせていただければ、「良い点」をいただける演技だと思った。



次は第2自由演技。

先月の全日本では第2自由演技の4回目の跳躍でスプリングに足をとられてしまった。応援している方がドキドキするくらいだから、佐藤さんの気持ちへの圧力や波動を思うと応援に力がこもる。

「いーち、にいー、さーん、よん、ごー」とジャンプ毎に心の中で数字を唱える。  
やった、やった。“じゅう”まで数えられ、見事な演技が終了した。

彼女のメンタルは強い、取り越し苦労だった。



佐藤さんの第2演技終了時点では12名中の3位。42名のエントリーで、有力選手も残っている中、決勝進出の上位8名に残れるか、ワクワクしながら後続選手演技を見る。一寸先は闇、全日本選手権で優秀な成績を収めていても、今回はミスしてしまう選手もいた。

最終的に佐藤優菜さんは8位。決勝進出決定！ 前回の悪夢を払拭してくれた。（下記、予選結果）

### ジャパンオープン兼全日本社会人女子

Rank	Name	Rtn.	E-scr	D-scr	T-scr	Pen.	Rtn. Total	Total
1	森 ひかる フリーエアースポーツクラブ	1st	26.5	2.7	16.705	0.0	45.905	97.785
		2nd	22.9	13.2	15.780		51.880	
2	山田 紗菜 日本体育大学クラブ	1st	25.2	2.9	16.725	0.0	44.825	97.455
		2nd	23.0	13.6	16.030		52.630	
3	岸 彩乃 金沢学院大学クラブ	1st	27.0	2.0	16.575	0.0	45.575	96.895
		2nd	22.0	13.8	15.520		51.320	
4	S. Smith CAN	1st	25.4	2.5	16.235	0.0	44.135	96.805
		2nd	22.6	15.0	15.070		52.670	
5	村山 優里 フリーエアースポーツクラブ	1st	26.5	3.1	16.330	0.0	45.930	96.380
		2nd	22.1	13.1	15.250		50.450	
6	宇山 芽紅 ①演技点 金沢学院大学クラブ	1st	26.1	2.7	16.225	0.0	45.025	95.980
		2nd	23.3	12.1	15.555		50.955	
7	松原 知穂 アベノジュニアトランポリンクラブ	1st	26.7	1.5	16.335	0.0	44.535	95.895
		2nd	23.5	12.1	15.760		51.360	
8	佐藤 優菜 とねりkindergartenスポーツクラブ	1st	25.9	2.5	16.400	0.0	44.800	95.750
		2nd	22.0	13.2	15.750		50.950	

予選結果をより理解するためにトランポリン競技について、ジャパンオープンパンフレットから下記を引用する。

#### <個人競技について>

縦520cm×横305cm×高さ115cmのフレームにナイロンテープまたはロープで編まれたベッドに118本のスプリングを張った競技専用トランポリンを使用します。

演技は10種目の異なる技で構成された第1自由演技（規定演技）1回と、第2自由演技（自由演技）1回の合計得点により、8名が決勝に進出します。決勝進出者は持ち点0点で再度第2自由演技を1回行い、最終順位を決定します。

第1自由演技は難易度点を計上する種目（2つの指定種目）を含む10種目を行います。また第2自由演技は10種目の難易度を演技点に合計します。演技の開始は予備ジャンプ（垂直ジャンプ）で徐々に高さを上げ、1種目目を行ってから連続で10種目を行い最後に着地を決めて終了します。また、技を連続出来なかった時や、ベッド以外に身体が触れたり、ベッド外に落下した場合は中断となり、その時点で演技は終了になります。

#### <採点方法>

- ①演技点⇒その演技の出来栄え（姿勢・こなし・移動・安定感）を採点。5名の演技審判員が採点し最高と最低点をカットした中間得点合計が演技点（30.0点満点）になります。
- ②難度点⇒それぞれの種目の回転数、捻り、姿勢によって算出されます。2名の難度審判員が採点を行います。
- ③跳躍時間点⇒2010年1月1日に新ルールとして導入されました。跳躍時間審判員が採点を行います。採点には跳躍時間測定機という機械を使用。トランポリンベッドが沈んでいない時間をセンサーを用いて計測し、その時間が1秒1点として、そのまま得点に反映されます。



予選から一夜明け、12月21日、昨日の雨が嘘のように晴天。

会場のとどろきアリーナに行く途中で、神社を見つけた。信心深いわけでは全くないが、最近アスリートの勝負を多く見ていると、「メンタル」と「運」が明暗を分けることもあるという言い古された言葉が現実味を帯びてきた。佐藤さんの幸運を願って、神社にお詣りをした。

後で調べると、この春日神社（川崎市中原区）は神奈川県天然記念物（平成4年2月14日）や神奈川県重要文化財（昭和44年12月2日）にも指定されている由緒ある神社らしい。確かに鎮守の森は荘厳だった。

とどろきアリーナに到着。室内で行われるとはいえ、昨日の冷たい雨と今日の青空ではやはり気分が違う。

11月の全日本選手権では静岡も雨模様だったので、「晴れ」はいい兆候だなあ〜と考えていたら、決勝出場者の紹介がはじまった。

決勝戦の最初の演技者は佐藤優菜さん。まっすぐに手をあげてコールにこたえている。  
(右の写真)



決勝の第2自由演技がスタート。男女の決勝戦の最初の演技者として緊張もある中、のびのびと高い跳躍が素晴らしい演技だった。得点は51.600で、7位入賞。「7位入賞、おめでとうございます！！」



順位	名前	得点
6	岸 彩乃	51.905
7	佐藤 優菜	51.600
8	山田 紗菜	50.580
-	-	-
-	-	-

順位	名前	得点
1	森 ひかる	53.180
2	S. Smith	52.565
3	松原 知穂	52.285
4	宇山 芽紅	52.125
5	村山 優里	52.030

## ジャパンオープン女子 決勝

Rank	Name	Rtn.	E-scr	D-scr	T-scr	Pen.	Rtn. Total	Total
1	森 ひかる 予選1位 フリーエーススポーツクラブ	Final	23.0	14.2	15.980	0.0	53.180	53.180
2	S. Smith 予選4位 CAN	Final	22.3	15.0	15.265	0.0	52.565	52.565
3	松原 知穂 予選7位 アベノジュニアトランポリンクラブ	Final	24.3	12.1	15.885	0.0	52.285	52.285
4	宇山 芽紅 予選6位 金沢学院大学クラブ	Final	23.8	12.7	15.625	0.0	52.125	52.125
5	村山 優里 予選5位 フリーエーススポーツクラブ	Final	23.4	13.1	15.530	0.0	52.030	52.030
6	岸 彩乃 予選3位 金沢学院大学クラブ	Final	22.7	13.8	15.405	0.0	51.905	51.905
7	佐藤 優菜 予選8位 とねりkindergartenスポーツクラブ	Final	22.7	13.2	15.700	0.0	51.600	51.600
8	山田 紗菜 予選2位 日本体育大学クラブ	Final	21.1	13.6	15.880	0.0	50.580	50.580

決勝の最終結果は上表の通り。予選順位からの変動も大きいことが、トランポリン演技の難しさを証明している。2度目のトランポリン競技の応援で、〈見どころ〉も少しだけ、わかるようになってきた。

〈見どころついて〉 \*ジャパンオープンパンフレットより

演技は①安定した高さ、②フォームの美しさ、③移動（トラベリング）しない安定さ、の観点から採点されます。トランポリンの醍醐味である高さをあげれば、逆にバランスを失い、フォームの乱れやトラベリングが生じやすくなります。また、自由演技では難度点が加算されるため、より高難度の技にチャレンジするほど難度点が高い反面、不安定になり、高い演技点が得られにくくなります。したがって、選手はこの両方の得点のバランスを考慮しながら自分に合った自由演技種目を構成して、より高く、より美しく、より高難度に挑みます。

トランポリンはそれぞれの選手の特徴によって、大きく演技が異なるところが魅力的な競技だと思った。今回の決勝に限っていえば、

- ◆2位の招待選手のサマンサ・スミスさんは難度点が15.0で8名中トップだが、演技点は22.3の7位  
～力強く、速度の速い回転と捻りの連続で、華やかで激しい演技
- ◆3位の松原知穂さんは難度点が12.1で8名中最下位だが、演技点は24.3のトップ

3つの得点のバランスをとるのか、どれかに重点をおくのか、選手の特徴に応じて戦略が立てられているんだろうなあと思人ながら推測する。

このあたりの観点も深めつつ、2015年の佐藤さんの活躍を期待して、引き続き応援していきたい。